

用語解説

(え)

エコカー

低公害車をはじめとして、排出ガス性能に加え、地球温暖化防止の観点から二酸化炭素排出量の少ない自動車をいい、電気自動車、ハイブリッド自動車、クリーンディーゼル自動車、天然ガス自動車、超低燃費車などがある。

エコドライブ

おだやかなアクセル操作をしたり、自動車に不要な荷物を積まないなど、環境にやさしい運転のこと。自動車の燃料消費量を削減することで、大気汚染の原因となるNO_x（窒素酸化物）やPM（粒子状物質）、地球温暖化の原因となるCO₂（二酸化炭素）の排出が抑制できる。

(か)

化学的酸素要求量（COD）

海域等の水の汚れの度合を示す指標で、水中の有機物などの汚濁源となる物質を、過マンガン酸カリウム等の酸化剤で酸化するとき消費される酸素量で表したものの。単位は一般的にmg/Lを用い、この数値が大きいほど水中の汚濁物質の量が多いことを示す。

合併処理浄化槽

し尿と併せて雑排水（生活系の汚水）を処理するもので、現行の法律ではBOD除去率90%以上、放流水のBOD濃度20mg/L以下（浄化槽法施行規則より）であることが定められている。

環境基準

人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準。大気、水質、土壌及び騒音について国が定めている。

(き)

揮発性有機化合物（VOC）

揮発性があり大気中で気体状となる有機化合物の総称。塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤などに使用され、トルエン、キシレン、酢酸エチルなど多種多様な物質が含まれる。浮遊粒子状物質や光化学オキシダントの原因物質となる。

(こ)

光化学オキシダント

夏季の日中など、工場や自動車から排出される大気中の窒素酸化物と炭化水素が太陽の紫外線を受けて光化学反応を起こし、生成する二次的汚染物質の総称。

光化学スモッグ

窒素酸化物と炭化水素が共存する大気が、種々の気象条件の影響を受けつつ太陽光（紫外線）の下で反応し、オゾン（O₃）、PAN（パーオキシアセト）等のオキシダント、アルデヒド類等を生成する現象である。光化学スモッグは、夏の日差しが強くて風の弱い日に発生しやすく、その影響は目のチカチカ感、のどの痛みなどの人体影響のほか、植物にある種の症状を与えるなどの広範にわたる。

合流式下水道

家庭や工場などから排出される汚水と、雨水とを同じ下水管で一緒に流す方式。一方、別々の下水管で汚水を下水処理場へ、雨水を公共用水域に流す方式を分流式下水道と呼ぶ。

(せ)

生物化学的酸素要求量（BOD）

河川等の水の汚れの度合を示す指標で、水中の有機汚濁物質が微生物によって分解されるときに必要な酸素量から求める。単位は一般的にmg/Lで表し、この数値が大きいほど水中の有機汚濁物質の量が多いことを示す。

(た)

ダイオキシン類

ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン（PCDD）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）及びコプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナーPCB）の総称であり、PCDDは75種類、PCDFは135種類、コプラナーPCBは十数種類の異性体が存在する。これらは、物の燃焼の過程や農薬の製造等において非意図的に生成し、毒性は、急性毒性、発ガン性、生殖毒性、免疫毒性など多岐にわたる。

ダイオキシン類の量は、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDDの毒性を1として、他の異性体の毒性の強さを換算した毒性等価係数（TEF：Toxic Equivalency Factor）を用いて、毒性等量（TEQ：Toxic Equivalency Quantity）として算出される。

(て)

低公害車

既存の燃料（ガソリン・軽油）を使用する車と比較して、排出ガスがないか又はその量が相当程度少ない自動車を指し、電気自動車やハイブリッド自動車、天然ガス自動車などがある。

低騒音舗装

空隙率の高い多孔質なアスファルト混合物を表層に用いた舗装。タイヤと路面間で発生する騒音を中心に、自動車騒音を3～4デシベル低減させる効果がある。また、空隙を通した排水によって路面に雨水が溜まらないため、走行時のハイドロプレーン現象や水飛沫によるスモーキングを防止する効果もある。

(に)

二酸化窒素 (NO₂)

空気中や燃料中の窒素分の燃焼などにより発生した一酸化窒素が、大気中の酸素と反応して生成される。高濃度で呼吸器に悪影響を与えるほか、酸性雨や光化学スモッグの原因となっている。主な発生源は、自動車、工場の各種燃焼施設、ビルや家庭の暖房機器など広範囲にわたる。

(ひ)

微小粒子状物質 (PM_{2.5})

浮遊粒子状物質 (SPM) *のうち、粒径が2.5 μm以下のものをいう。

微小なため肺や気管等の深部に沈着して高濃度で呼吸器に悪影響を及ぼすおそれがある。

※「浮遊粒子状物質 (SPM)」を参照

(ふ)

浮遊粒子状物質 (SPM)

大気中に浮遊する粒径 10 μm (1 μm は1000分の1 mm) 以下の粒子状物質。

微小なため大気中に長時間滞留し、肺や気管等に沈着して高濃度で呼吸器に悪影響を及ぼすおそれがある。発生源から直接大気中に放出される一次粒子と、ガス状物質が大気中で粒子状物質に変化する二次生成粒子とに分類される。

特に小さい (粒径 2.5 μm 以下) 粒子をPM_{2.5}*という。

※「微小粒子状物質(PM_{2.5})」を参照

(ほ)

ポリ塩化ビフェニル (PCB)

PCBは、不燃性で絶縁性が高く化学的に非常に安定であるなど有用な物質として絶縁油、熱媒体、ノーカーボン紙、インク等の用途があった。しかし、カネミ油症事件の原因物質で、新しい環境汚染物質として注目され大きな社会問題となったため、昭和47年に製造中止となっている。

(も)

藻場・干潟

藻場とは大型海藻などが群落状に生育する場所の総称をいう。また、干潟は海と陸の境にあって、満潮時に水没し、干潮時には干出する砂泥の堆積した平坦な場所。酸素と太陽光と栄養分が豊富であるため、多様な生物が生息するとともに、海水浄化に重要な役割を担っている。

アルファベット略語

BOD(Biochemical Oxygen Demand)

「生物化学的酸素要求量」を参照。

COD(Chemical Oxygen Demand)

「化学的酸素要求量」を参照。

PCB (Polychlorinated Biphenyls)

「ポリ塩化ビフェニル」を参照。

PM_{2.5}(Particulate Matter 2.5)

「微小粒子状物質」を参照。

SPM(Suspended Particulate Matter)

「浮遊粒子状物質」を参照。

VOC(Volatile Organic Compounds)

「揮発性有機化合物」を参照。